

「境港市スポーツ推進審議会」会議録

【日 時】平成 26 年 3 月 26 日（水）16:00～17:10

【場 所】中央公民館

【出席者】竹内 栄、門脇 眞澄、善波 周、田中 茂人、岩田 慎介、
角 和子、渡邊 憲二、嘉賀 収司（8 名・敬称略）

【欠席者】梅木 千賀子（1 名・敬称略）

【傍聴者】なし

【事務局】佐々木 邦広（教育長）、池田 明世（生涯学習課長）、
古徳 健雄（生涯学習課文化体育係長）、
梅谷 俊一（生涯学習課文化体育係主任）

1. 開会

委員の過半数の出席が必要ですが、委員 9 名中 8 名が出席しており、この審議会は成立となります。

2. 教育長あいさつ

日頃からスポーツ振興、市民の体力作りにご尽力いただき感謝している。1 年を振り返ると、鬼太郎駅伝には韓国・ロシアの参加はなかったが、両国の食を味わっていただいた。高校駅伝は県大会・中国大会もあり、合計 3 回の駅伝が開催された。バレーボールの全国大会である、ことぶき大会には約 1,500 人にご参加いただいた。

施設には課題も多く、市民体育館の耐震診断やテニスコートのオムニ化を実施します。陸上競技場は第 4 種公認を取るための改修、竜ヶ山球場はスコアボードを改修し野球を楽しんでいただけるような施設にしていきたい。

境港公共マリーナが JOC 強化施設に、葉山と唐津に加えて認定された。県及びセーリング協会が中心となるが、本市としても支援していきたい。

3. 会長及び副会長選出

委員の互選により梅木会長、竹内副会長が就任

4. 報告事項

- (1) 保健体育費の主要事業について
- (2) 体育施設の利用状況について
- (3) 使用料改定について
- (4) その他

<副会長> 事務局から一括して報告を求めます。

<事務局> (要旨)

◇平成 26 年度の保健体育総務費は前年と同規模だが、体育施設費は 10 倍近い予算増となっている。

◇新年度機構改革があり、施設改修については教育総務課で執行していく。

- ◇健康ウォークは、コース変更も検討しながら魅力的な大会にしていきたい。体力テストも引き続き開催し、今後の体力作りに役立てていただきたい。
- ◇日韓口駅伝交流事業は、韓国・ロシアの参加を積極的にお願いしていく。
- ◇市民体育館は、昭和 55 年建築で耐震診断が必要となる。
- ◇市民温水プールは、清掃センター廃止に伴いボイラーを増設する。
- ◇体育施設の利用状況については、市民体育館・第 2 体育館・スポーツ広場の利用が増えている。
- ◇使用料については、消費税率等が 8 % になるため、体育施設の利用料金を改定する。市民温水プールは多くの市民から要望もあり、障がいのある方などの料金を全額免除する。
- ◇境港公共マリナーが JOC 強化施設に認定されたが、日本選手の強化とともに、外国人の合宿地誘致が行われる。

<副会長> 質疑等がありますか。

<委員> 陸上競技場の 4 種とは、具体的にどういうものか。

<事務局> 地域の競技会に使用できる。1 種ともなれば国体等が開催できるが、レーンを全天候に改修し、写真判定装置などの整備が必要となる。

<委員> 体力テストは 56 人しか参加がなく、PR 不足だったのでは。

<事務局> 市報や公民館等で広報したが、十分に周知ができなかった。

<委員> PR 不足を反省し、もっと早い時期に PR できればよかった。

<委員> 普段自分の体力を比べることはしないので、少し長い目でみていかないといけない。

<事務局> 体力年齢を知ることで、スポーツを始めるきっかけにもなる。

<委員> 陸上競技場の維持管理はどういう体制になっているのか。

<事務局> 境港市体育協会に管理委託しているが、所属団体と連携して進めている。陸上競技場は陸上競技協会がメインであり、4 種公認の整備後の管理をお願いしていきたい。

<委員> 草刈や審判台を直していただいたが、たくさん子どもたちが使うので、引き続き維持管理をお願いしたい。

5. 意見交換

<副会長> 現状報告、今後の課題等があればご意見をお願いします。

<委員> 近年、少子化によりスポーツ少年団やクラブチームの運営が困難になりつつある。土日には大会があれば保護者等に引率していただいているが、父子・母子家庭が増え、入団したくてもできない場合があり、どういった支援ができるのかと考えているところである。なかなかチームが組めない状況の中で、サッカーは協会に登録しないと大会に出場できないということがあり、野球の子が応援で出場できるようにならないものか。

<委員> 20 年前 1,500 人いた生徒数は、今 1,000 人まで減ってきている。その中で柔道部、剣道部、バレー部など 1 割の部活が減っている。生徒数が 3 割減っているということは顧問の人数も限られ、非常に頭を悩ませている。運動をせずに入学してくる生徒も多いので、軽運動や文化部の部員が増えてきている。境港市は、中

体連の大会については全額旅費が出る。30年前は800万円だった予算規模が、今は350万円で済んでいる、つまり勝てなくなってきている。いかにして中学の部活動を振興していくかということで、スポ少との連携や教員の確保が課題となっている。

<委員> 野球で境港市の高校が勝てなくなってきたのも、施設の老朽化も一つの要因なのか、少子化ながらもいい意味で競い合いができる場があればと考えている。使用料の免除の説明もあったが、料金を取った方が正常に機能するのではないか。少額でもいただいて機能を充実させ、境港市にも誇れるような施設整備をした方が、活性化が図れるのではないか。

<委員> 市内には3つの総合型地域スポーツクラブがあるが、連携が取れていない。特に男性の会員が少なく、1割程度しかいないが少しずつ増えてきている。高齢の方には自分の健康に気を付けていただいて、医療費をなるべくかけない方向でいけたらと考えている。メタボ検診で引っかかった人が継続して運動ができるよう、市健康推進室と連携して取り組んでいる。

<委員> 朝の通勤途中に中高年の方が歩いているのを多く見かける。小学生は朝遅れたり、雨が降ったりすると、親がすぐに送ってしまう。生活の中から体を動かす機会を奪われてしまっており、風邪をひかない、粘り強い体力がなくなってきている。運動の二極化も進んでおり、運動を毎日する子もいれば、全くしない子もいる。取り巻く環境を変える必要があるが、学校では体育の授業しかない。幸い芝生化になったことで休憩時間に遊ぶ子が増えてきてはいるが、環境を整えたり、仕掛けが必要だと思っている。

<委員> スポーツ推進委員で、ペタンク・ウォーキング・体力テストなど行事を起こしても、参加者数が少ない。以前は盛んだったが、スポーツに興味がないということを感じている。駅伝の選手が犬にかまれるということがあったが、万全の態勢でなければならない。引き続き行事を行うので協力をお願いしたい。

<委員> 境港公共マリーナがJOC強化施設に認定されたが、申請には行政の協力が必要不可決であり、以前は予算計上もままならなかった。今回は県教育長がハーバーに来た際に強化施設の話をしたところ、県知事にまで積極的に動いていただいたことが認定につながった。市民でもヨット競技のことを知らない人が多いのではないかと思う。陸から見れば優雅だが、かなりハードな競技である。小学生のころから海の怖さを教えてあげることも大切であり、是非とも体験していただける機会を作っていただきたい。せっかく海外から選手が来ても、地元からの選手がいないと何のための認定か分からない。このような環境に恵まれた場所は他にない。

<委員> 他県ではアスリートを育てる取り組みとして、小学校で体力テストをして、中学3年生で進路を決めるというものらしい。サッカーで中津江村が有名になったことがあったが、境港市も今回の認定で知名度が上がるし、小中学生のころから強化選手を育て、オリンピックに出られる選手が生まれればいいなと思う。

<委員> 他県が競ってアスリートの強化策を考えている。今回はいいチャンスである。

<委員> 市民体育館使えなくなると困るので何とかしていただきたい。昨年健康ウォー

クに参加したが、流れ解散ではなく、ゴール後もみんなが一緒に参加できるような取り組みがないとさびしい感じがする。

<副会長> 今回の意見は、今後の課題としてスポーツ振興に反映にさせていただきたい。

<事務局> 昨年の健康ウォークは速さを競われた人もいたが、目的が一つとなるような取り組みの必要性を感じている。

6. 閉会